

令和6年度 学校推薦型選抜 情報科学部情報科学科 小論文  
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

メタバースの急拡大に向けて検証すべき事柄について言及している社説および教育や就労支援、地域活性化へのメタバースの利活用の事例を資料として提示した。設問では、アドミッションポリシーの2, 3, 4の観点から、これらの資料を参考に、メタバースの特徴を理解した上で、メタバースを利用した地域課題解決の道筋を具体的かつ論理的に表現することができるか、また、その際に考慮すべき問題点を的確にとらえ論理的に考察する力を有しているかを問うている。

【解答の傾向】

- ・身近な地域課題は明示できているものの、その課題の解決に向けた取り組みに具体性を欠く解答が多くみられた。
- ・メタバースを活用する際に考慮すべき問題点について述べられているが、それがメタバース活用における問題点ではなく、一般的な問題点(メタバースを活用する場合に発生する特有の問題点ではない)となっているものもあった。資料ではメタバース活用の際の問題点もいくつか提示されているため、これらを読み取って、地域課題解決のためにメタバースを活用する場合の問題点を論理的に述べる必要がある。しかしながら、述べられている問題点が資料には提示されていないものであっても、適切であると判断できるものは評価した。
- ・地域課題とは言えない課題(全国共通の課題)を挙げている解答が1/3程度あった。
- ・途中から論点がずれてくる解答が1/4程度あった。
- ・少数ではあるが、出題の意図を理解できていない、問題文を読み取れていない(ただ単に資料をまとめただけ、地域課題を挙げずメタバースの課題について述べる)解答もあった。
- ・メタバースを本当に理解している受験生は半分程度であった。
- ・ほとんどの受験生は時間内に文章を記載する力はあるものの、日本語の言い回しの不自然さ、誤字、助詞の使い方が不適切といった文章の不備は全ての解答でみられた。

第2問

【出題の意図】

総務省が毎年発表している情報と通信についての報告書「令和5年度 情報通信白書」の第2章第3節「インターネット上での偽・誤情報等」からグラフを資料として出典し、それらから日本が抱えている課題の認識およびその解決についての考察できる力を有しているか、また「アテンション・エコノミーの広まり」「フィルターバブル、エコーチェンバー」「偽・誤情報の拡散」の項目から偽・誤情報の流通と拡散によって、今後どのような影響が現実的に起こり得るのか、それに対して自身のみならず地域なども巻き込んでどのように課題解決をすべきかを簡潔に表現できるかを問うている。

設問1は、アドミッションポリシーの1と2の観点から、グラフから他国に比べて日本の情報に対する

認識・意識が低いという事実を理解すること及びそれらを改善するための課題は何であるかを正確に認識できるかを問う問題である。

設問2では、アドミッションポリシーの2, 3, 4の観点から、設問1で読み取ったグラフの傾向も踏まえ、現状のままでは将来的にどのようなようになるのか考察できるかどうか、問題を解決するためにすべき自身の行動、さらには地域課題として取り組むべきものであることを自由に意見する問題である。

### 【解答の傾向】

#### 設問1

- ・「ファクトチェック」と「フィルターバブル」の2つがキーワードであるが「情報の流動」のような一般的な用語で説明している解答が多かった。おそらく、引用元の資料の名前をそのまま利用したのだと考えられる。
- ・ファクトチェックおよびフィルターバブルという2つの点において、日本のインターネット利用における課題が読み取れているが、この2つの意味を明確にして指摘している解答は少なかった。
- ・グラフから、諸外国と比較して日本人の「情報」に関する意識が低いことを読み取る点が重要であるが、概ね良好であった。
- ・グラフから「情報のパーソナライズへの認識」「ファクトチェックの認知度」が共に他国に比べて低いという現状を読み取ることが重要であるが、この点に関しては概ね良好であった。しかしながらその現状を踏まえた課題がどういったものであるかの道筋を立ててまとめられていた解答は少なかった。

#### 設問2

- ・複数の表から読み取った内容を記述した受験生が少なかった。
- ・資料に関係なく自分の意見をしっかり述べる受験生が多く、例を用いて説明している受験生も散見された。自分の意見を相手に伝える工夫がみられ、文章を書く勉強していることがわかった。
- ・多数の受験生が複数の資料を組み合わせることで解答することができていた。一方で全ての資料を組み合わせることで解答を導いた受験生はごく一部であった。
- ・「これらの資料から」と問に書いていることから、必然的に設問1を踏まえた上で資料3の考察をすべきだが、資料3だけで解答をしていると思われるものがほとんどであった。
- ・偽・誤情報の流通と拡散についての影響については現状が書かれていたので概ね良好であったが、諸問題に対しての解決方法が自身の言葉で書かれていないものが多く、また解決するには「自分」がどうすべきか書かれているが、他者に対してや地域課題にまで発展させての解決を論じたものはほぼ見受けられなかった。